

---

# その世界に太陽はもう来ない

ディゴッド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

その世界に太陽はもう来ない

### 【Nコード】

N7799P

### 【作者名】

デイゴッド

### 【あらすじ】

今でも忘れられない

お姉ちゃんのおの天使のような純真さ

あの太陽のような眩しい笑顔

でもある時から、その姿が見えなくなつた。  
私は声が枯れるまで泣き続けた。

でも、それから暫くしてお姉ちゃんが帰ってきたの。  
私は嬉しくて嬉しくて、お姉ちゃんに何度も何度も頬擦りした。

今でも忘れられない

お姉ちゃんあの天使のような純真さ

あの太陽のような眩しい笑顔

でもある時から、その姿が見えなくなった。

私は声が枯れるまで泣き続けた。

でも、それから暫くしてお姉ちゃんが帰ってきたの。

私は嬉しくて嬉しくて、お姉ちゃんに何度も何度も頬擦りした。

そういえば、もうお昼ご飯の時間だな。

待っててお姉ちゃん

そう言いながら私はお姉ちゃんのご飯を作り、お姉ちゃんの元に向かった。

お姉ちゃんは嬉しそうにそのご飯を食べてくれた。

「憂、何しているのよ?」

梓が悲しそうな顔で、声をかけた。

「見てよ梓ちゃん、お姉ちゃんったらこんなに美味しそうにご飯を食べているよ」

「憂、だからそれは野良犬何「違う!!」  
梓の声は憂の怒声に掻き消された。

「梓ちゃん、いい加減にしてよ!!個々にいるのは平沢唯、私のた  
った一人のお姉ちゃんなんだよ!!どうして、野良犬呼ばわりする  
のよ!!」

「憂!いい加減にしてよ!唯先輩はもう「違う!!」  
純の声を怒声で掻き消すと、憂はその場に泣き崩れた。

「どうして…どうして…誰もお姉ちゃんの事を認めてくれないの…  
嫌い…梓ちゃんも純ちゃんも…お姉ちゃんを認めてくれない人なん  
て…みんな大っ嫌い!!」

「憂…」

「行こう、梓」

そう言いながら純は梓の手を引つ張っていった。

憂はまだ唯先輩が死んだという事実を受け入れていない。

いや、これからもその事実を受け入れる事は一生無いだろう。

私はそんな憂を見ていると、涙が抑えられなかった。

f i n .

その世界に太陽はもう来ない

(あの子にとっての太陽はもうこの世にないのだから)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7799p/>

---

その世界に太陽はもう来ない

2011年1月4日01時29分発行